

# 農村の生き物たち

水田やため池などでよく見かけるカモと言えば、カルガモです。カルガモは全国各地で繁殖し、北海道を除き、湖沼や池などで一年中見られます。水田の畔などでも、巢や、列になって歩く親子を見かけることがあります。

特徴的な顔で、見慣れたカルガモですが、冬は找ける難易度が上がります。冬には多種のカモが渡ってきて、カルガモの他にも様々な模様や色のカモが水辺にいるため、そして中には似ているカモがいるためです。水辺にカモがいたら、よく見比べてみてはいかがでしょうか。

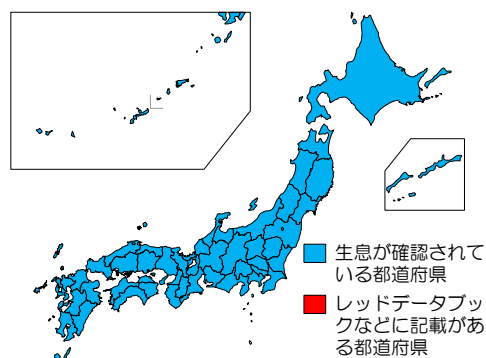
鳥綱 カモ目 カモ科 マガモ属

## カルガモ *Anas zonorhyncha*

軽鴨 ほかの呼び名：夏鴨



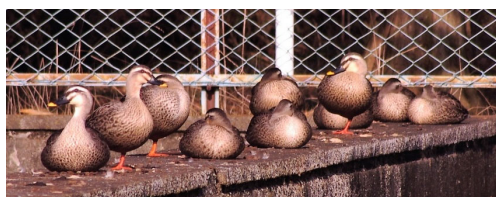
生息分布



環境省RDBの記載：—

### 特徴

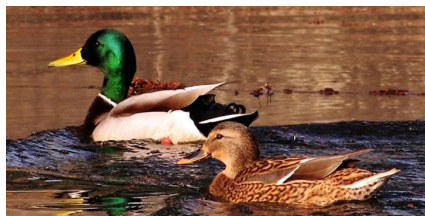
- 全長は約60cm<sup>1)</sup>。
- ほかにカモと違い、雌雄同色。体は褐色で、黒褐色の斑があります。顔は淡色で、特徴的な2本の黒線があります。くちばしは黒く、先端が黄色です<sup>1)</sup>。
- 全国的に繁殖します。北海道を除き、湖沼や池、川、海岸などで一年中みられます<sup>1)</sup>。



構内の貯水槽にもよく来ます

### 近縁種

- マガモのメスは似ていますが、くちばしが黒くて周囲が橙色です<sup>1)</sup>。
- 冬には、様々なカモが国内に渡ってきます。



マガモ（左：オス、右：メス）



ヒドリガモ

### 生態系における位置付け

- 主に水面で、植物の種子などを食べます<sup>2)</sup>。

### 人との関わり

- 稲の苗の踏みつけ、種もみ・登熟期の穂の食害による農業被害があります。
- マガモなどとともに狩猟対象になっています。
- 治部煮、鴨すき、鴨汁などの伝統料理の材料であり、ジビエとしても流通しています。
- 「夏鴨」や「夏の鴨」、「軽鴨の子（かるのこ。ヒナのこ）」など、俳句の季語になっています。
- 埼玉県越谷市と千葉県市川市には、宮内庁が管理する「鴨場」があります<sup>3)</sup>。

### 保全に向けて

- カモへの餌やりは、食べ残しが水質悪化につながるなどから禁止している場所が増えています。

参考 1)高野伸二(1995):フィールドガイド日本の野鳥 増補版、日本野鳥の会、p42. 2)叶内拓哉(2000):カモハンドブック、文一総合出版、p13.  
4) 宮内庁HP <https://www.kunaicho.go.jp/culture/kamoba/kamoba2.html>